



海洋高生操船を体験

男鹿海洋高校（男鹿市）が、洋上風力発電設備の作業員らを育成する訓練センター「風と海の学校 あきた」と連携した教育活動に取り組んでいる。センターは今年4月に海運大手の日本郵船（東京）などが校内の実習棟に開設し、これまでに講話や操船の模擬体験などを実施。さまざまな交流や施設の活用を通じ、産業教育やキャリア教育の充実につなげるのが狙い。

今月11日、センターでは日本郵船クリーンビジネスグループの川上哲治船長（44）による講話が行われた。食品科学科の3年生12人が参加し、具体例を交えた船上の業務に関する話に耳を傾けた。その後、操船シミュレーターで洋上風力発電の作業員輸送船（CTV）の操縦を疑似体験した。

操船シミュレーターを体験する食品科学科の生徒

風と海の学校と連携

川上船長は「将来、同じ海のフィールドで働く子が一人でも出てくれればうれしい」と語った。教育活動の連携は、海洋系の専門教育の充実や生徒の職業観の醸成に向け、校内にあるセンターを活用していくと、同校と日本郵船などが以前から協議を重ねてきたことが背景にある。本年度はセンターの設備を使った各種の体験活動、船舶の見学などを検討しているという。

訓練施設、授業に活用

このうち海洋科では、小型船舶を安全に航行させるための知識や技術を習得する「小型船舶」の授業や実習などで、センターにあるシミュレーターを活用する予定。海洋科の教員がシミュレーターを使って指導できるよう、職員向けの研修も今後行う。

「船乗りを育てるという観点で、これだけ設備が整っている学校はなかなかない。企業が持つノウハウや知識に触れる経験は、人生の中で非常に大きなものになる」と海洋科主任の秋島俊文教諭（41）。「洋上風力の関連事業を地元への産業にしていくなめには、秋田で人材を育成する必要がある。その一助となればいい」と話した。

センターでは今後、中学生や地域住民、保護者らが訓練設備を体験したり、施設内を見学したりできるイベントも開催する予定。

（藤田祥子）